Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

15歳以下の孤立性僧帽弁疾患における僧帽弁手術の遠隔期成績

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久米, 悠太 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032085

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙　第 2955 号	氏　　名	久米　悠太

審　査　委　員　会	主　査　教　授	永田　智

論文審査の要旨（400 字以内）

本学心臓血管外科学教室の久米医師は、当院で僧帽弁形成術(P 術)を行った 30 例および機械弁による僧帽弁置換術(R 術)を行った 26 例を対象として平均 9 年、最長 27 年以上にわたって遠隔成績を綿密に調べ報告した。その結果、P 群より R 群の 10 年時、20 年時の生存率は有意に低下しており、孤立性僧帽弁閉鎖不全症(iMR)に対する P 術、R 術の遠隔成績は良好であったが、孤立性僧帽弁狭窄症(iMS)においては生存率が有意に低下していた。その理由として iMS では R 術が必要な例が多く、十分な大きさの機械弁が得られないことが重要であることを突き止めた。また、P、R 両群において 10 年時における再手術回避率および R 術後の脳関連合併症に有意差が認められず、その理由として小児循環器科を含めた良好な外来コントロールが背景にあることが考えられた。かかる知見は、今後の当分野の技術的、学術的な発展に大いに寄与するものと思われ、学位授与に十分値する成果であると考える。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]